令和６年度　学　校　評　価　【 計　画　書 ・ 報　告　書 】　　加賀市立金明小学校 校長　松原 清美 印

【学校教育ビジョン】
自ら学び、判断し、行動する金明っ子の育成
【めざす児童像】
よく考え、自分から動く子
・自ら学びに向かう子　（主体的・対話的で深い学びを追及し、「わかった！できた！」を大切にした授業をめざす）
・やさしい子　自分で考え行動する子（生徒指導の3つの視点を生かした教育活動を推進する　・自己存在感の涵養・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・安全安心な風土の醸成）
・たくましい子　（挑戦する意欲、最後まで粘り強くやり抜く力を育む）

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	「わかった！できた！」を大切にした授業づくり	・自立した学び手を目指して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。	研究主任	・児童は自立した学び手のイメージがつかめていない。目指す自立した学び手の姿を具体的に示していく必要がある。	【成果指標】 ・学び方のあてをたて、次につながる振り返りができる。	自分で学び方のあてをたて、振り返ることができた児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査			
	基礎・基本の定着	・計算チャレンジで、計算力の定着を図る。	教務主任	・児童は課題に真面目に取り組むが、全体的に基礎・基本の定着が弱い。練習を積み重ねて力と自信をつける必要がある。	【成果指標】 ・児童が計算の基礎・基本を身に付けている。	計算チャレンジ（1年生は、計算3分プリント）の正答率80%を超える児童が A90%以上　B80%以上 C70%以上　D70%未満	計算チャレンジ・計算3分プリント） （7月　12月）			
②生徒指導	思い地のよい学校・学級づくり	・児童の、児童による、児童のための学校づくりを推進する。	児童会	児童は、授業だけでなく、行事や特別活動等の活動にも意欲的に取り組んでいる。今後は、児童がより創造的・自治的な学校づくりを運営していけるよう、教師が見守り、バックアップしていく。	【満足度指標】 ・児童が「学校は楽しい」と感じている。	「学校は楽しい」と思う児童が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	1・2学期末に、児童を対象にアンケート調査			
	いじめ問題への組織的な対応	・いじめ問題に、組織的かつ迅動的に対応し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。	生徒指導主事	人間関係や個々の役割が固定化されている面があり、それに悩んでいる児童もいる。児童の思いを受け止め真摯に向き合うこと、情報共有や記録について体制を常に整えておく必要がある。	【満足度指標】 いじめの未然防止・早期発見・早期対応への取り組みが、組織的・協働的かつ日常的に行われている。	アンケートや面談の実施が、いじめ問題の対応に役立っていると回答した教職員が11人中 A 10人以上 B 8～9人 C 6～7人 D 5人以下	1・2学期末に、教職員を対象にアンケート調査			
③キャリア教育・進路指導	自己肯定感・自己有用感の向上	・個々の目標を持たせ、振り返りの場を大切にし。自己の変容や成長に気づかせる。（自己評価、キャリアパスポートの活用）	キャリア教育	・日々の学校生活や行事の中で自分の目標を大切にし、目標について達成度などを振り返ることができている。しかし、全体的に自己肯定感・自己有用感が低いことが課題となっている。客観的に自己評価をし、自信や次の目標・意欲につなげられる力を育てたい。	【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。	「自分には良いところがある」と思う児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童アンケート （7月　11月）			
④保健管理	健康に対する意識・実践力の向上	・計画的な指導により、健康的な生活習慣を身につけ、健康にすごそうとする意識・実践力の向上を図る。	保健主事 養護教諭	・メディアのルールについて、正しい知識・技能を身に付けるとともに、自ら実践しようとする意識や態度を育てる必要がある。	【成果指標】 児童が自ら生活習慣を改善しようとしている。	メディアのルールの改善について自分なりに考えて取り組むことができたと答えた児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1・2学期末に児童を対象としたアンケート調査			
	体力・運動能力の向上	・１校１プランの取組等により体力・運動能力の向上を図る。	体育	昨年度の体力テストでは、20mシャトルランの記録が県平均を下回った学年があり、個人差も大きい。本校の伝統である金明マラソンの継続で、児童のさらなる体力向上を図りたい。	【成果指数】 20mシャトルランの記録が向上するように努めている。	20mシャトルランの記録が6月に比べて上がった児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	6月、11月に4年生以上の児童を対象に計測			
⑤安全指導	計画的な安全教育と避難訓練の実施	どのような行動をとることが安全なのか、自ら考え行動できる力を高めるために、訓練の前後に考える時間を設定する。	教頭	・火災、地震、不審者等から身を守る知識や技能を身につけるとともに、自ら考え行動できる力を育てる必要がある。	【努力指標】 ・児童が、生活、交通、災害に関する様々な危険の要因や事故等の防止について理解し、進んで安全な行動ができるよう努めている。	自分の身は自分で守ろうと努めている児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	6月、11月に4年生以上の児童を対象にアンケート調査			
⑥特別支援教育	個に応じた支援の充実	・配慮が必要な児童についての情報・効果的な支援のあり方を共有し、個に応じた支援を行う。	特別支援教育コーディネーター	・定期的に校内支援委員会を開き、専門相談員につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれの児童について、さらに継続して支援の方法を探っていく必要がある。	【努力指標】 専門相談を招いた支援委員会で、具体的な支援の方法を決めて、実践しようと努力している。	専門相談を招いた支援委員会等で決めた支援方法の実践に努めたという教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査			
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化	効率的に業務にあたるために、部会や主任会の計画的設定や放課後の時間を確保する。	教頭	・部会や主任会を計画的に設定したり、日課の工夫により放課後の時間を確保したりして、多忙感を払拭する手立てを講じる必要がある。	【努力指標】 見通しを持った業務遂行に努めている。	見通しを持った業務遂行に努めている教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査			
⑧研修	若手教員の育成	日常的OJTを意識して、若手教員相互による学び合いを行う。	教頭	・若手教員が6名おり、その内、Ⅲ期の教員が3名いる。若手研修のリーダーを中心に日常的なOJTを進め、相互に学び合い、指導力の向上を図る。全教職員で育成のための指導・助言にあたる。	【努力指標】 若手教員相互による学び合いや全教職員の指導・助言に努めている。	日常的なOJTを意識して若手教員育成に努めている教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査			
⑨保護者，地域との連携	開かれた学校づくり	CSメンバーと情報共有し、学校と地域の要望を相互につなぐ場としてCSを機能させる。	教頭	・昨年度はCSCに協力を仰ぎ、学校の要望に十分応えていただいている。今年度はCSが学校と地域をつなぐ場として、双方向による情報交換を行う必要がある。	【努力指標】 学校運営協議会は学校と地域をつなぐ場として情報交換に努めている。	学校運営協議会は学校と地域をつなぐ場として双方の情報交換に努めていると感じている教職員が11人中 A 9人以上 B 7～8人 C 5～6人 D 4人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査			
⑩教育環境整備	児童の意欲を高める環境デザイン	・児童が主体的に学びを進めることができる環境づくりに努める。	教務主任 研究主任	・昨年度は、教室以外の選択肢を使用する児童があまりいなかった。そこで特別教室を有効に活用し、自立した学びをより進める環境を整えていく必要がある。	【努力指標】 自立した学びを進めることができる環境づくりに努めている。	環境づくりに努めた教職員（机等の配置やヒントカード等）が11人中 A 8人以上 B 6～7人 C 4～5人 D 3人以下	6月・11月に教職員対象にアンケート調査			

学校関係者評価	